第十七回名古屋名駅 薪能

第17回名古屋名駅薪能の開催にあたって

東海旅客鉄道株式会社
取締役名誉会長　葛西　敬之

名古屋の夏を彩る名古屋名駅薪能の開催を今年も迎えられることを、心よりお祝い申し上げます。

大都市「名古屋」の玄関口、JR名古屋駅において、日本の伝統芸能である「能」が演じられる非常にユニークなこの催しも着実に回を重ね、今年で17回目であります。これもひとえに財団法人観世文庫や名古屋名駅薪能実行委員会をはじめ、地元の皆様方のご尽力によるものと思います。

また、併せて開催される名古屋名駅薪能全国学生能楽コンクールも今年で10回目となり、名駅薪能が幅広い世代の皆様に親しまれていることは、協賛する一企業として大変嬉しく存じます。

この大変意義深い行事が、今後も多くの皆様に親しまれることを期待いたします。

番組

仕舞「胡蝶」 KO CHOU

シテ　胡蝶の精　久田三津子

「阿漕」 A KOGI

シテ　阿漕の霊　観世芳伸
地謡　上田貴弘　坂口貴信
　　久保信一朗　伊藤裕貴

舞囃子「田村」 TA MURA

シテ　坂上田村麿の霊　久田勘鷗
囃子方　笛　藤田六郎兵衛
　　小鼓　久田舜一郎
　　大鼓　河村眞之介
地謡　下川宣長　久保信一朗
　　山中雅志　松山幸親
　　井上裕之真

狂言「水掛聟」 MIZU KAKE MUKO

シテ　聟　井上松次郎
アド　男　佐藤友彦
アド　女　鹿島俊裕
後見　大橋則夫

能「杜若」 KAKITSU BATA　恋之舞

シテ　杜若の精　観世清和
ワキ　旅僧　福王茂十郎
囃子方　笛　藤田六郎兵衛
　　小鼓　久田舜一郎
　　大鼓　河村総一郎
　　太鼓　加藤洋輝
後見　上田公威　坂口貴信
地謡　観世芳伸　上田貴弘
　　下川宣長　久田勘鷗
　　山中雅志　松山幸親
　　伊藤裕貴　関根祥丸

〈企画・久田勘鷗事務所〉

あらすじ

杜若　かきつばた

【あらすじ】諸国一見の僧が都から東国へと志し、旅を重ねて三河国（愛知県）へやって来ます。とある沢辺に杜若の花が美しく咲いているので、思わず見とれています。そこへ、一人の里女が現れ、ここは八橋という古歌にも詠まれた名所であり、昔、在原業平が東下りの際ここで休み、「かきつばた」の五文字を各句の頭において「からころも　きつつなれにし　つましあれば　はるばるきぬる　たびをしぞおもふ」という歌を詠んだという故事を教えてくれます。その上、旅僧を自分の庵に案内し、泊ってゆくようにすすめます。やがて、女は初冠に唐衣を着て、その姿を見せにくるので、僧は驚いて素性を尋ねます。女は、自分が杜若の精であるとうち明かし、また業平は歌舞の菩薩の化現であるので、その詠歌の功徳により非情の草木も成仏したと告げます。さらに「伊勢物語」や業平について語り、舞をまい、やがて消えてゆきます。

【みどころ】「伊勢物語」に拠り、杜若の精をシテにしてまわせるのが主題です。本文では、シテは杜若の花の精とはっきり名乗っているのですが、先へゆくと、業平と二条ノ后高子との恋物語や業平の歌が重なって一寸混乱しているように思えます。その上、花の精の着る唐衣は、業平と恋愛関係にあった二条ノ后高子の御衣であり、初冠は業平の形見の品です。ですから、僧の夢の中では、その舞い姿は、ある時は杜若の精に、ある時は高貴な后に、また業平その人とも映ります。更にその時代は、業平は歌舞の菩薩の化身であるとも信じられていたので、三重四重の美しい映像が重なっていると思えばよいでしょう。夢物語にしたのは、なかなか巧みな構成です。

中入なしの一場物ですが、夢幻能なのに二場構成になっていないのが珍しく、まだ世阿弥の複式夢幻能の形式が確立していなかった時期の作品とも考えられます。ともあれ、所は艶やかに杜若の咲き競う名所八橋、時はさわやかな初夏、王朝文化へのあこがれから、幽玄の美学によって組みたてられた、紫のファンタジーといった能で、短篇ながら佳作です。

田村　たむら

【あらすじ】東国の僧が都見物に出、弥生なかばに清水寺に着き、爛漫と咲くたそがれ時の桜花に見とれていると、威風堂々たる武将姿の坂上田村麻呂の霊が現れます。そして勅命を受けて、鈴鹿山の賊を討伐すべく軍を進めたが、合戦の最中に千手観世音が出現し、その助勢によって、敵をことごとく滅ぼした有様を物語り、これも観音の仏力であると述べます。

水掛聟　みずかけむこ

【あらすじ】水田を見回りにやって来た舅は、自分の田に水がないことに驚きます。よくよく見れば、隣どおしに田を持つ娘聟が、畦を切って自分の田へ水を引き入れている様子。見兼ねた舅は聟を待ち伏せて意見をしますが、忠告はやがて口論となり、互いに身勝手な持論を展開。そこへ騒ぎを聞きつけ仲裁にやってきた娘までも巻き込んで…。

農耕民族であった我々の思い（身勝手さ）がよく表現されている作品で、『我田引水』や『水掛論』の語源と教訓が盛り込まれた作品となっています。

二十六世観世宗家
KANZE KIYOKAZU
観世清和

1959年生まれ
二十五世観世左近（元正）長男
重要無形文化財総合指定保持者
平成27年春　紫綬褒章受章
芸術選奨文部科学大臣賞
芸術選奨文部大臣新人賞受賞
フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受章
（一財）観世文庫　理事長
（一社）観世会　理事長
（独）日本芸術文化振興会　評議員
（一社）日本能楽会　常務理事

シテ方観世流能楽師
HISADA KAN-OH
久田勘鷗

1947年生まれ
観世流能楽師　故 久田秀雄の次男
重要無形文化財総合指定保持者
大阪文化祭賞奨励賞受賞
神戸フルーメール賞受賞
名古屋市芸術奨励賞受賞
名古屋演劇ペンクラブ賞受賞
（公益社団法人）能楽協会　名古屋支部　副支部長
（社）観世会　会員
（一社）日本能楽会　会員